

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校

校長
酢谷昌義



「畳コーナー」はいつも大人気

図書室の充実と読書

今年度学校施設がずいぶん充実しました。その中で真っ先に思い浮かぶのが図書室です。昨年度から図書の寄贈を受けた折は、その都度お知らせしてきましたが、この2年間で1000冊を超える図書の寄贈を受けました。その中には、企業の皆さんからはもちろん多くの個人の方、また愛知県の旭北小学校の子ども達が集めてくれたものも含まれています。皆さんのおかげで、本当に図書室らしくなってきたと思います。

日本を離れ生活しているものにとって、日本の書籍は非常に貴重なものです。特にここカタールのように、その国で買うことができない場合はなおさらです。しかも良書といわれているものが、新しい本でたくさんそろっているの、子ども達にとっても本当に良かったと思います。

図書の冊数だけでなく、図書室の環境としても、子ども達が利用したいと思う図書室に徐々になってきたように思

います。中部電力の三田会長からいただいた畳で作った「畳コーナー」は、子ども達のお気に入りの場所になっています。朝読書の日には、イスよりも畳を利用している子どもの方が多くいます。リラックスして本を読むことができる場があるというのは、とても良いことではないかと思

います。また、(株)シャープから寄贈していただいた「空気清浄機」も図書室に設置されています。たくさん寄贈していただいたので、各教室だけではなく大勢が1度に集まる図書室にも置くことができました。日本の学校で、空気清浄機を設置している図書室というのは、私はあまり聞いたことがありません。このように、本当に多くの方々のご協力で図書室の充実が図れたことは、大変ありがたいことと感謝しております。

開校当初から「図書室を学校で最も居心地の良い場所にしたい」と思っていたので、

物質的な面だけでなく環境衛生面など、様々な面で充実してきたことは、とても嬉しく思います。

これからさらに考えていかなければならないことは「図書室のより良い活用の仕方」です。施設として充実してきたからこそ、それをどう活用するかがこれからの大きな課題です。今年度重点目標の1つとして読書指導の充実を掲げてきました。来年度は、ますます充実させることができるように工夫していきたいと思

「山田雪乃さん」が遊びに来てくれました

第1学期まで一緒に生活をしてきた雪乃さんが、日本からわざわざ遊びに来てくれました。雪乃さんは日本で既に卒業式を済ませ、どうしてもドーハ日本人学校の友達にもう1度会いたいと、春休みを使って来てくれたようです。

わずかな時間ですが、お互いにとって大切な思い出にできればと思います。



本棚がすっかり埋まりました



旭北小からいただいた本のコーナー



雪乃さんと久しぶりのお弁当

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校

校長
酢谷昌義



毎日いろいろな関わりが生まれます

感情の交流の大切さ

今年度は児童生徒数が開校時の約3倍に増え、大変嬉しく思っています。増えたとはいえ小規模校に変わりはありませんが、クラスや学校での取り組みなど、様々な変化が見られるようになりました。

子ども達が増えるたびに強く感じてきたことは「子どもは子どもの中で育つ」ということです。これは当然のことですが、いろいろな子どもがいることで、子ども達は子ども同士の間から様々なことを学び、お互いの感情を交流し合うことができます。しかしこの感情の交流は、年齢が近い者同士でないと難しいことが多いため、クラスの仲間が増えるということは、子ども達の成長にとっても大変ありがたいことなのです。

お互いの感情を出し合うことによって、様々な衝突が生まれます。思うようにならなくて悔しさを覚えたり、友達とけんかをして涙を見せることがあるかもしれません。し

かしこれらは全て、子ども達の健全な成長にはとても大切なことなのです。

最近は、周囲との摩擦を嫌う子どもが増えてきているように感じます。むしろ傷つくことを怖がっているといった方が良いかもしれません。そのため表面的な交流しかできず、一旦うまくいかなくなってしまうと、関係を修復することができず、しだいに敬遠するようになってしまいます。このようなことでは、これから先、自分とは異なる多くの人との関わりを持つことが難しくなってしまうのです。

今の社会で望まれているのは「共生の力」です。傷つくことを「辛い・悲しい」と悲観的にとらえるのではなく、人に優しく自分に強くなるための、大切な第一歩だと前向きに考えられるようになってほしいと思います。

子ども達と大人の関係においても、同じようなことが言えるかもしれません。「子どもは叱られる権利がある」と

言われた有名な方がいます。確かにその通りだと思います。ところが、最近は叱られることに慣れていない、叱られることそのものを極端に嫌う子どもが増え、叱れない大人も増えてきたように思います。

これも大変心配なことではないでしょうか。大人が子どもに対して権威を振りかざすのではなく、しっかりと向き合ってやる必要があると思います。

「子どもは食う権利がある。
子どもは遊ぶ権利がある。
子どもは寝る権利がある。
子どもは叱られる権利がある。ところが本当に子どもを叱る人が少なく、怒る人が多いのです。」

私はこの言葉を、自分を振り返る時に考えることにしています。子ども達の健全な成長のためには、周囲の人との感情の交流がとても重要です。子ども同士はもちろん、私達大人と子どもの関係でも、真剣に考えなければならないことではないかと思っています。



毎日楽しいお弁当の時間



休み時間には元気良く外で遊びます



ゲームで楽しむ中学部の生徒達

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校校長
酢谷昌義

「別れ」のつらさ…!

昨日の5時間目に、今年度末でドーハ日本人学校を離れる子ども達のお別れ会を行いました。予定ではもう少し多くの子が転出することになっていましたが、東日本大震災の影響で帰国を先延ばしされた方もあり、今回は7名の子ども達とのお別れになります。

お別れ会をするといつも思うことですが、ドーハ日本人学校の子供達は本当にやさしいということです。送る側と送られる側のどちらもが、わずかなお別れ会の時間をとても大切にしようとしている気持ち、大変良く伝わってきます。

最後の思い出に、全校で久しぶりに「こおり鬼」が行われました。青空の下、みんなで思いきり遊びたいということで、校舎裏の芝のスペースが使われました。日中はかなり暑くなっていて、思いきり外を走り回るのはつらい時期になりつつありますが、それでも子ども達は、顔を真っ赤にして楽しんでいました。



7人の友達とのお別れ会：お別れの言葉と記念品を贈りました

その後には、送る言葉やお別れの言葉が続きました。毎回子ども達のあいさつを聞いていると、涙が出そうになります。たった1人との別れでさえつらいのに、1度に7人となると寂しさもとても大きくなります。

そんな中でも、子ども達のあいさつの素晴らしさには感心させられます。お別れする7人の子ども達のあいさつには、きっと日本へ帰っても、学校をかわっても立派にやっていけるという強さを感じることができます。それは昨日のお別れ会に限ったことではありません。前回のお別れ会の時もそうでしたし、今まで何度も繰り返されています。

人前でしかも自分が送られるという立場でも、自分の思



心のこもったお別れのあいさつ

いがきちんと話せるということは、素晴らしいことです。それだけの緊張にも負けない力をつけてくれたのだと、1人1人のあいさつを聞きながら私は嬉しく思いました。

日本人学校では「別れ」を避けて通ることはできません。つらいのは仕方ありませんが、新たな「出会い」の始まりであり、自分を成長させるための大切な経験でもあります。ドーハを離れる子も残る子も、今までの成果を生かし、自信を持ってこれからの学習・生活にのぞんでほしいと思います。

明日は「卒業式」

明日はいよいよ卒業式です。卒業生と在校生の全員が力を合わせ、素敵な式にするために頑張っています。今日はみんなで会場準備と、最後の練習に取り組みました。きっと素晴らしいものにできると思います。

お忙しい折とは思いますが、保護者の皆様のご出席、よろしく願いいたします。



最後の練習に力が入ります

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校

校長
酢谷昌義



修了式の態度も立派でした

「有終の美」を飾る

本日の修了式をもって、平成22年度を無事に終えることができました。ここまで来ることができたのは、保護者の皆様をはじめ多くの方々を支えてくださったお陰だと感謝の気持ちで一杯です。

また昨日の卒業式には、年度末のお忙しい中にもかかわらず、門司大使をはじめ多くの来賓の方が駆けつけてくださり、厳粛な儀式を温かい雰囲気で行うことができました。保護者の皆様をはじめこうした皆様の温かいご支援があり、この学校は成り立っているということを改めて感じました。

それ以上にこの学校を盛り上げているのは、子ども達1人1人の力です。これまで、

何度も話していることですが、ドーハ日本人学校の子ども達はどんなことにも意欲的に取り組んでいます。そして本番に強いという、とても素晴らしい力を持っています。卒業式も、正にその力を発揮してくれたと思います。

今日の修了式では、各学年ごとに修了証書を渡しましたが、返事も姿勢も卒業生とかわらない大変立派な態度をしていました。

年度を締めくくる大切な儀式で、子ども達の成長を感じることができ、有終の美を飾ることができたようで、嬉しく思っています。

たくさんの方への感謝を忘れず、今後も子ども達と共に頑張っていきたいと思います。

保護者の皆様へ

この1年間ドーハ日本人学校に対し、様々な面でご支援ご協力くださりありがとうございます。お陰様で子ども達が楽しく安全に学校生活を送ることができる環境が、少しずつ整って参りました。

今年度末での帰国者が多いのは大変寂しいことですが、これは日本人学校の宿命でもあります。だからこそ、それぞれの出会いと別れを大切に、これまでの皆様のご支援を活かせるよう、職員一同気持ちを新たにしております。

転出していく子ども達とドーハ日本人学校の子ども達の、ますますの活躍を心から祈っています。



皆様のご協力でもとても素敵な卒業式にできました